

# 農業共済新聞

**NOSAI**  
 公益社団法人  
 全国農業共済協会  
 〒102-8411  
 東京都千代田区一番町19番地  
 購読 ☎ 03-3263-6413  
 編集 ☎ 03-3263-6727  
 月4回・水曜日発行  
 ©全国農業共済協会2017  
<http://www.nosai.or.jp/>

## カット野菜 県内産を集荷拡大

# 安定供給へ組織結集

### 岡山県倉敷市 倉敷青果荷受組合

ツの端境期となる4～5月も県内産を利用できるよう、冷蔵貯蔵施設を整備。7月中旬～10月中旬は、高冷地の長野県産や群馬県産などを使う。消費者側も女性の社会進出や核家族化を背景に、利便性が高いカット野菜の需要が伸びている。地場産の割合を高めて安定供給に努め、消費者の国産ニーズに添えている。

「キロごとの契約取引は、収量を高める栽培管理だけに集中できるのが利点。コストダウンを図れば安定した収入が得られる」と、岡山県岡山市カブト中央町の有限会社エアンドエス・大平専専務(41)は話す。岡岡灘干拓地で露地野菜65畝を栽培する。キャベツは春作と秋作で計40畝を手掛け、生産量の約3割を倉敷青果荷受組合に出荷する。

#### 主力はキャベツ

キャベツは安価でかさがあり、栄養価も比較的高いため、カット野菜の中でも主力品の一つだ。硬く結球し加工歩留まりの良い寒玉系品種が求められ、エアンドエスは高収量で病害に強く、生育が早いやすい「おきな」「彩ひかり」「冬武将」「タネノリ」などを栽培する。

組合とは播種前に売買数量を取り決め、書面にて契約を交わす。自然災害などによる不作時は「売買数量を当事間で協議する」と契約書に明記している。ただ、実際に数量がそろわないときは、組合が青果卸の強みを生かして不足分を調達する。取引価格はキロ60円(運賃込み)だ。輸送距離が短い農家の手取りは多くなる。さらに出荷規格が1キロの秀が優れ、簡便化され、300キロ入る鉄製コンテナでも出荷でき、出荷調整の手間が大幅に削減できるのも利点だ。栽植密度は10坪当たり3500～4千株とし、1株当たり2キロ以上の出荷を目標とする。生育が順調であれば、10坪当たり40万円程度の収入が期待できる。

#### 協議会を設立 実需者も参加

県内産野菜の利用拡大を目指す組合呼び掛け、2015年10月に、岡山県産野菜生産・利用拡大協議会を設立した。エアンドエスをはじめ農業法人などの組織、外食企業など実需者も構成。実需者も参加することで互いの実情を理解し、信頼関係を築く狙いもあるという。組合の意向や作理事務は十分な手取りを確保し、運元にはは、上取傾向にある物流の削減が不可欠。産地に近い、生育状況などの情報交換も密にできる」と説明する。

## 近距離輸送で物流費減 播種前に取引量を決定



出荷目今のキャベツを確認する倉敷青果荷受組合カット野菜部の寺田幸司課長(左)と大平専専務

1,000キロ増産する計画だ。4月ごろに播種を開始し、作付け計画を提出し、10坪当たり収量を高く定めて、契約数量を決める。今年2月には集出荷貯蔵施設を整備し短期間、冷蔵保管することで、端境期の4～5月にも追加できる体制を確立した。

「1,000キロ増産する計画だ。4月ごろに播種を開始し、作付け計画を提出し、10坪当たり収量を高く定めて、契約数量を決める。今年2月には集出荷貯蔵施設を整備し短期間、冷蔵保管することで、端境期の4～5月にも追加できる体制を確立した。」

#### 堅調な需要

組合のカット野菜部では16年度売上高が43億円、5年前に比べてほぼ倍増している。調理の簡便化が図れるカット野菜は、外食・中食企業への販売が中心だが、近年はスーパーやコンビニエンスストアで売られる消費者向けパックサラダの売り上げ増も顕著だ。一方、1.5キロ入り千切りキャベツの店頭価格は100円前後で、価格競争も発生している。



農林水産省農林水産政策研究所の小林茂典上席主任研究官によると、野菜価格の高騰時に、店頭価格が変動しないカット野菜の売り上げが伸びる傾向にあるという。利用した消費者が利便性に魅力を感じ、野菜価格が落ち着いた後も継続購入し、需要が広がることが、カット野菜の需要が伸びている要因だと説明する。

